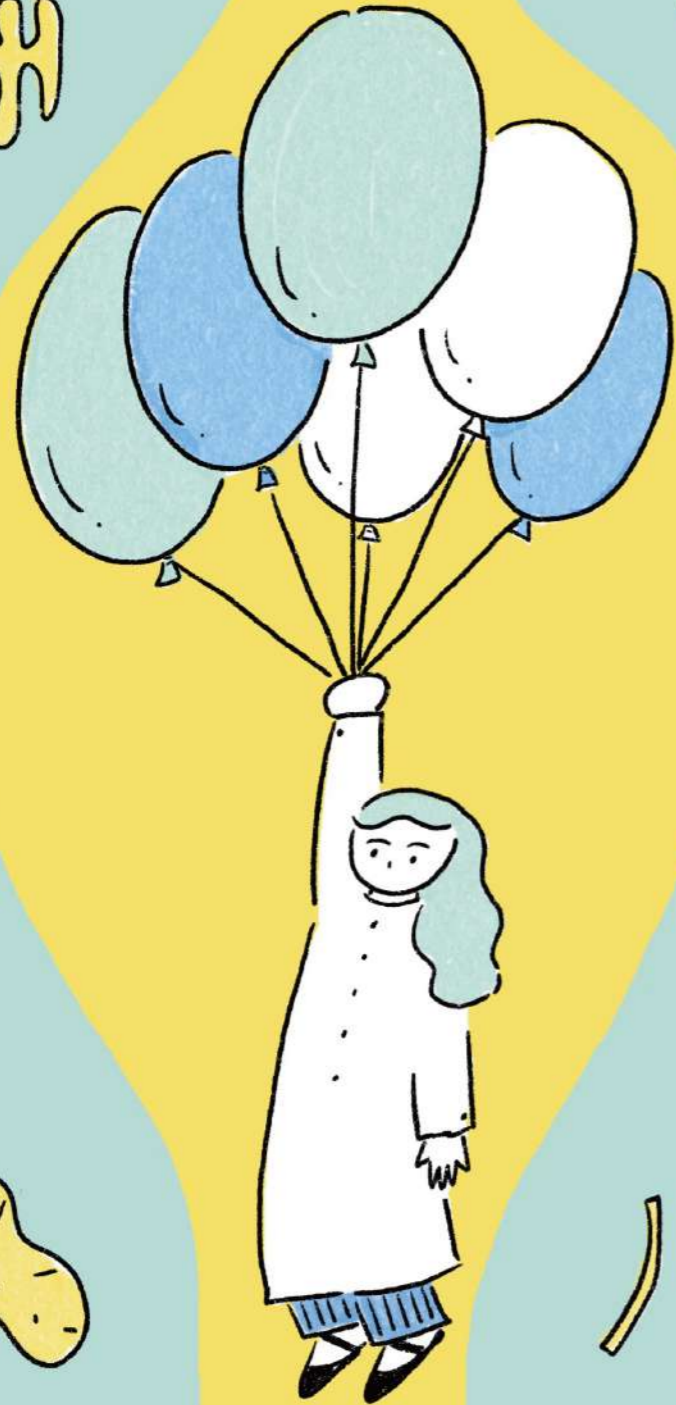


患者さん中心の透析医療を追い求めて。

ONE!

Kokuradaichi hospital

2024
VOL. 015
MARCH



ONE! 015

2024年3月16日 DCB ステントグラフト導入

小倉第一病院 思い出の一丁目一番地

私のONE!



薬剤科 科長

東 慶子

プロフィール

「薬剤師として人を笑顔にすること」を
モットーに働いています。

2006年 小倉第一病院入職

一からのスタートとなった電子カルテ導入業務

社会人生活Ⅱ第一病院で過ごした日々ですので様々な思い出がありますが、電子カルテ導入に携わったことは印象深い思い出です。ITの知識も乏しく説明される言葉の意味さえ分からず、初歩的なことから学んでいく、まさに一からのスタートでした。システム作りはもっと簡単に出るものかと思っていたので、一つ一つの仕組みを自分たちで選び作っていかねばいけないことに驚くとともに責任の大きさも感じました。処方薬剤や用法の登録、事前準備など大変なこともありましたが、たくさんの人に支えられ協力し当院に適したシステムを作り上げた達成感と皆で作って上げていくという一体感は、貴重な経験でありましたし、大きな成長にもなりました。運用が始まってからも試行錯誤の連続でしたが、薬剤関連のことは薬剤科が管理をしていますので、その分野は一番理解し頼られる人であるよう、精進していきたいです。



医療法人真鶴会 小倉第一病院

〒803-0846 福岡県北九州市小倉北区下道津1丁目12-14

TEL:093-582-7730 FAX:093-592-7689

発行 / 小倉第一病院

【今回の特集】血液透析においてシャント狭窄や閉塞などのトラブルには、これまでバルーンによって血管を中から広げる経皮的血管拡張術「PTA」が行われてきましたが、最近ではDCB（ドラッグコーテッドバルーン）やステントグラフトが登場したことで、シャントトラブルに新たな治療戦略が生まれています。

◎表紙イラストレーター / いそけい

START

DCB
ステントグラフト導入



血液透析における
シャント狭窄・閉塞への
新たな治療



DCB



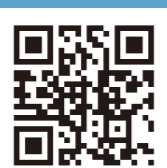
動画で内容を確認いただけます。



ステントグラフト



動画で内容を確認いただけます。



自己静脈内シャントの
再狭窄率を低減するDCB

従来のシャントトラブル治療は主にPTAです。狭窄した血管部分をバルーンで広げる治療ですが、再び狭窄を起すことがあります。数か月おきにPTA治療を受ける患者さんも多いです。最近ではシャントに対するPTAの方法として新たな治療法が注目されています。それが、DCBとステントグラフトです。DCBはDrug Coated Balloonの略で、薬剤が塗布された特殊なバルーンカテーテルを用いてPTAを行う方法です。

このバルーンに塗布されている薬剤はバクリタキセルと呼ばれ、一般的に抗がん剤として使用されています。細胞の増殖を抑える働きをし、血管に吸収されると血管内膜の増殖を抑える効果があります。手順としては、通常通りPTAを行い、狭窄部をバルーン拡張後、薬剤の塗布されたDCBを用いてさきほど拡張した部位をさらにバルーン拡張します。これにより薬剤が吸収されて血管内膜の増殖を抑制することで、再狭窄のリスクを低減する効果が期待されます。

ステントグラフトによる
人工血管内シャント狭窄の
開存性を向上

DCBは自己の動静脈を利用するシャントに対して使用されますが、グラフト(人工血管)を用いたシャントに対しても新しい治療法が注目されており、これがステントグラフトです。ステントグラフトは、メッシュ状の金属製のフレーム(ステント)と、それを覆う合成物質で構成されています。これが傘のように折りたたまれており、狭窄部で広げることでステントグラフトが広がって固定されます。イメージとしては、グラフトの狭窄部に内側からもう1本グラフトを入れて補強するようなものとなります。これにより従来のPTAに比べて良好な開存が期待される治療法です。当院では施設基準・術者基準を満たしており、患者さんへの使用を開始しました。どちらもシャントが長持ちして透析患者さんの負担が軽減されることを期待しています。